

# 京都府大学改革基本計画（骨子）

## 大学改革に当たって

- ・ 大学は府民の貴重な資産であり、京都府の未来を創るために極めて重要。
- ・ 府立の大学は百年を超える伝統と実績を持つが、社会の激変の中で今後も使命を果たしていくための改革が必要。
- ・ 改革に当たっては、両大学の伝統と実績を基盤としながら、個性や特色を一層伸ばしていくことが重要。
- ・ また、京都に集積する他大学との連携が重要であり、京都と密接な関わりを持つ京都工芸繊維大学と緊密な連携をすることで、より強力に総合力を発揮することが可能。
- ・ このような考え方を基本に、京都府と大学が一丸となって以下の改革に取り組む。

## 1 これからの大学に求められるもの

### (1) 大学が関わる学術・社会経済等の変化への対応

不透明な時代に対応できる柔軟な発想や豊かな人間性を養成する教育や社会の複雑化等に対応できる総合的で専門性の高い教育研究の展開  
学術、科学技術等の進展に対応できる研究の高度化、学際化、総合化  
若年・中高年層の意識変化等に対応した教育・地域貢献等大学の役割の見直し

### (2) 大学の経営環境の変化への対応

18歳人口の減少による「大学全入時代」の到来、規制緩和等制度改革の進展、他大学の取組（学部等の新設、入試改革、法人化等）による大学間競争の激化に対応した大学改革の推進

## 2 府立の大学が今後果たすべき使命

### (1) 府立の大学を設置する意義

両大学は、医療、文化、産業、生活など府民生活に直結した教育研究を主要な目的・使命として位置づけられ、学術的探求等に加え、府民の負担をもとに設置された大学として、京都府はもとより我が国を担う人材の養成や地域医療等府民生活への貢献などの役割を果たしてきた。

両大学の設置意義・目的についても、社会の変化や府民のニーズを踏まえ、常に問い直し確認するとともに、これに基づいた不断の点検が必要。

### (2) これからの府立の大学に求められる使命

心の時代に豊かな人間性を育む教育の実施や専門分野の深耕など教育の質の向上  
教育分野の充実や教養教育と専門教育の有機的連携の確保、専門的職業人の育成 等

科学技術の発達や社会ニーズに対応した健康・環境分野等の研究の高度化  
専門的・先端的研究や学際研究・総合研究の推進 等

府民に支えられた大学として、多様な公共的課題の解決をめざした教育研究の実施など一層の地域貢献の拡充

固有の歴史・伝統・文化を持つ京都に根ざした総合的な教育研究の追求  
地域医療や地域文化・福祉・環境・産業など地域課題への対応  
社会人教育の充実、産学公連携等研究成果の地域還元 等

### **(3) 使命を果たしていくための課題**

#### 教育研究の課題

価値観の多様化や幅広い人間性育成のための教育科目の拡大や学生交流の推進  
地域や行政課題に対応したシンクタンク機能の充実、社会人再教育への対応など、多様化・複雑化する府民ニーズに応える総合的な教育研究体制の構築  
京都というフィールドを最大限活用した教育の実施や近接分野の協働による学際性・総合性の発揮など専門教育・研究分野の充実・強化

#### 地域貢献の課題

地域や行政、府民等のニーズの積極的把握と研究成果の積極的な地域への提供

#### 組織・運営の課題

大学の取組に対する府民への説明責任や、組織や予算等への大学運営の自主性や弾力性の拡大など組織・運営基盤の強化

## **3 改革の方向**

府立の大学の使命を果たしていくためには、教育研究の内容や組織・運営の見直しに加え、京都における大学の集積を活かし、他大学との連携による総合的な教育研究体制の構築が重要

### **(1) 3大学連携の推進**

府立医科大学・府立大学と京都工芸繊維大学には、地域に密着し地域産業に貢献するなど共通する実績と使命があり、特色ある学部構成を活かした有機的連携、相互補完が可能。また主要キャンパスが極めて近く、学生等の円滑な交流が可能。

教育研究等の充実のため3大学の一体的な連携の推進を図る。  
(大学院連携等による総合的な専門教育の実現、教養教育の共同実施、研究協力の推進 等)

### **(2) 府立の大学改革の方向**

#### 教育研究の充実と地域貢献への対応

3大学連携による総合的な教育研究の展開と専門教育の充実等  
豊かな人間性養成のための教養教育の共同化  
大学の「知の価値」を活用した総合的な地域連携と地域貢献の展開

#### 大学運営を支える組織・運営基盤の強化

中長期的な視野をもって大学の自由度を高め、府民等のニーズや地域貢献等に迅速・着実に対応  
府民への説明責任を果たし、運営の透明性を確保

#### **公立大学法人制度の導入**

両大学を通した目標・計画等により、使命の共有化、連携・分担の明確化  
内部管理業務の一元管理（経営統合）による効率・効果的な運営  
両大学の伝統や個性、ブランド力等を継承・発展するとともに、両大学の有機的な共同・連携を展開  
京都工芸繊維大学等他大学との連携等に柔軟・弾力的に対応  
府立医科大学附属病院も新たな公立大学法人の一部となるが、これまでどおり府が責任を持つ病院として、府民の健康を守る中核施設として地域に貢献

#### **1法人2大学による組織・運営の基盤の強化**

改革に伴う教育研究の充実、高度化等に施設・設備面で対応

## 4 改革の内容

### (1) 3大学連携による総合的な教育・研究の展開

時代の要請、府民・地域社会が抱える様々な課題に対応するため、総合的、専門的、先端的な教育研究を推進する。

府立大学の学部・学科・大学院の再編

現 行			再 編		
文 学 部	文学科 史学科 国際文化学科	再編	文 学 部	日本・中国文学科 欧米言語文化学科 歴史学科	
福祉社会学部	福祉社会学科		公共政策学部	公共政策学科 福祉社会学科	
人間環境学部	食保健学科 環境デザイン学科 環境情報学科		統合	生命環境学部	食保健学科 環境デザイン学科 環境情報学科 農学生命科学科 森林科学科 生命分子化学科
農 学 部	生物生産科学科 森林科学科 生物資源化学科				
大学院			大学院（再編・充実）		

改編後の学部・学科名称は仮称

#### 【再編の視点】

##### 学部の再編

###### 文学部の学科再編

- ・ 学科の再編により、文学や歴史学を基盤に京都の歴史・伝統・文化の総合的な教育・研究を推進
- ・ 言語による異文化理解や欧米文化との比較についての教育・研究を推進
- ・ 専門領域を超えた「京都学コース」(仮称)の設置などにより、京都を文化的側面から捉えた学科横断的な教育を推進
- ・ 教養教育の充実に向けて、人文系リベラルアーツ(教養教育科目)の中核

###### 公共政策学部(仮称)の設置(福祉社会学部の再編)

- ・ 京都府社会・行政等との密接な連携(公共に携わる人材の育成)
- ・ 問題発見・課題解決・未来志向型の人材の養成・育成
- ・ 地域の福祉をリードする専門的職業人の育成

###### 生命環境学部(仮称)の設置(人間環境学部・農学部の統合)

- ・ 農学分野と人間環境分野を融合・発展させ、生命系と環境系に再編し先進的な教育・研究を推進
- ・ 「安心して安定した食の生産」に資する「農学」の深化
- ・ 人間と環境にやさしいライフスタイルのあり方の探求・創造
- ・ 近接分野の協働による学際性、総合性の発揮
- ・ 行政部局・試験研究機関との強力な連携・交流や支援(一体的取組の強化)

##### 大学院の再編

###### 文学研究科の再編

###### 公共政策学研究科(仮称)の設置

(公共に係る課題等に即応したシンクタンク機能の発揮や社会人等の再教育への対応)

###### 生命環境学研究科(仮称)の設置

(人間環境科学研究科と農学研究科の統合・再編)

### 行政と連携した教育・研究・事業の展開

- ・ 京都府立総合資料館等との調査研究・事業等の共同実施
- ・ 京都府の機関と連携した実践カリキュラムの提供

### 府立医科大学 大学院修士課程の設置

- ・ 3大学連携による医用工学など医学隣接科学領域、保健・医療・福祉領域の拡充

### 医学研究科（既設）に医科学専攻（修士課程）を新設

- ・ 医学研究の多様化、融合化に対応し、21世紀をリードできる優れた研究者の育成
- ・ 地域医療、保健行政等地域で活躍する「健康科学プロフェッショナル」の養成
- ・ 医工連携等産業界との連携に資する人材の育成

### 保健看護研究科＜保健看護学専攻（修士課程）＞を新設

- ・ 保健、医療、福祉領域における健康福祉増進の指導的役割を担える保健看護の専門職の育成
- ・ 健康回復に向けての高度な保健看護実践能力を有する専門職の育成
- ・ 京都府内の保健看護職者の生涯教育の推進

京都工芸繊維大学や他大学等教育研究機関との連携強化

## (2) 教養教育の共同化

学生の選択肢の拡大・多様な人材交流の促進等を図るため、府立医科大学・府立大学・京都工芸繊維大学の教養部門の共同化を図る。

3大学の教育資源の活用による教養教育科目の共同開講を実施（単位互換制度等の活用）  
学生の交流を促進する一体的・総合的な教養教育の環境整備  
カリキュラムの再編や専門準備型教育の充実など府立の大学における教養教育の充実

## (3) 地域・行政課題に対応できる機能の充実・強化

多様化・複雑化する地域課題に対応するとともに、積極的な地域貢献を行うため、府立の大学のシンクタンク的な機能の強化、地域連携機能の強化を図る。

総合的な地域連携機関の設置等による産学公連携等積極的な地域貢献策の実施  
人事交流、共同研究の推進など京都府関係機関等との共同・連携

- ・ 府・市町村行政等との密接な連携による大学のシンクタンク機能の強化
- ・ 医療センターによる地域への医師派遣の推進

## (4) 生涯教育・社会人教育等の充実

府民の幅広い知識習得ニーズに対応するため、大学の知的資源を活かした生涯教育を実施するとともに、雇用形態の変化や技術革新等社会環境の変化に対応するため、社会人教育等を積極的に展開する。

- 公開講座・市民講座等の一層の充実
- ・ 京都の特色を活かした生涯教育事業等の実施、公開授業等の実施  
社会人の教育機会の拡大
- ・ 社会人コースの創設など実学分野での社会人再教育プログラムの拡充や京都府、市町村職員等の政策研修、大学院への受入など

## (5) 運営基盤の強化

大学を取り巻く課題や環境変化に対応して、教育研究等の充実を図るためには、大学の自主的な考え方を尊重するとともに、その成果に対する大学の責任を明確にすることにより、これまで以上に大学が意欲的に、また柔軟に教育研究を進めていくことができるよう、大学の組織・運営を見直すことが必要になっている。

また、大学を設置する京都府としても、中長期的な運営目標等に基づいて、教育研究の成果を的確に評価し、府民や学生の視点で改善を図りながら、大学の教育研究の進展を支えていくことが重要となる。

このような自主性と責任、的確な評価に基づいて運営基盤の強化を図るため、公立大学法人制度を導入する。

### < 組織・運営の改革の方向 >

運営改善による大学の「経営品質」の向上

戦略的・機動的なマネジメントの確立

時代の変化に大学自らが創意工夫で柔軟に対応できる体制

府民・地域・行政・産業等と積極的に連携できる体制

学外の意見の積極的な導入や透明な運営の実現

効率的で効果的な内部管理的業務の執行の実現

### < 公立大学法人化による改革の内容 >

府民の意向を反映した中期目標、中期計画・年度計画等による運営改善

法人の「経営」と大学の「教育・研究」の機能分担等により、戦略的・機動的な意思決定・実行を確保

予算の編成や執行、組織など自主・自律性の確保や時代の変化に迅速に対応

柔軟な制度による教職員の地域貢献活動、企業等との連携を促進

財務の公開等による説明責任の徹底、外部の声を反映した透明な運営を実現

両大学に共通する内部管理業務等を一元化、教育・研究などに資源を重点化

## (6) 教育研究環境の整備

大学改革を実施するために必要な教育研究環境の整備を図ることとし、教養教育、専門教育、研究、生涯教育・社会人教育や府民・産業・地域の総合的な教育・研究の交流拠点の整備を検討する。

府立医科大学花園学舎、府立大学キャンパスのあり方検討などが課題

## 5 計画の実行

法人化・学部再編等は平成20年度目途に実施（その他可能なものから順次実施）